



94号発刊に当たつて

ユウパリコザクラの会

代表 藤井 純一

光陰矢のごとしどう言葉がありますが、三メートル近くもある雪をラッセルして、新旧ヒュッテの雪を下ろしに行つたのが一月、三月にはあの崖崩れを乗り越えて内装工事に行つたつけ。やつと雪が融け本格的に内装工事に取りかかつて早三ヶ月。もう高く鱗雲が流れ、アキアカネが飛ぶ季節になりました。なんと早いことか。

今期は予期せぬ崖崩れによる通行止めに合い、車による交通が閉ざされたなか、三回体交流登山は中止を余儀なくされたが、後は予定通り事業を進めている。例年にはない

NHKの取材もいろいろな方法を駆使して実施することができた。これは八月二十五日「小さな旅」という番組で放映されました。

誰も時間を止めることはできない。この時間の経過の早いのを克服するには、多くの人の力が必要です。よく「何人／日」という言葉を聞くと思いますが、この工程五人／日といえば、一人で五日かかります。五人だと一日で終わります。内装工事はなかなかこの論理には行きませんが、外回りはまさにマンパワーです。十月末の木枯らしが吹くまでには、内装はもとより、外装壁の整形・塗装、周辺整理などをしなければなりません。どれも皆さんのがんばって成し遂げることはできません。私たちには全国の多くの人たちの支援があり、期待を受けています。大変やりがいのあるボランティア活動です。秋まで一つの区切りとして、怪我の無いよう人に間力を

第94号

2013.9.9 発行
(平成25年)

ユウパリコザクラの会
事務局
〒068-0412
夕張市鹿の谷東丘町3
水尾君尾方
TEL/FAX 0123-52-3306
携 帯 090-8632-8928
E-mail
kozakura@m8.dion.ne.jp
ホームページ
<http://yuparikozakura.org/>

発揮しましょう。

二十五年活動を続けていると、いろいろな問題が内に秘めてあります。目の先のことに追われて、解決しなければならない問題を後回しにして来たことも事実です。じっくりそれらの問題に目を向けて行かなればなりません。困難に直面したら常に、私たちは何のためにこの活動をしてきたか、原点に返つて考えれば必ず解決の道があると確信します。



9 / 6 教育長査察 新ヒュッテの運用が開始されました

**第九回アポイ岳 安全登山・盗掘
防止研修会 兼「アポイ・ユウバリ
交流学習登山会」に参加して**

(平成二十五年六月一日～二日)

会員 松下 陽子

六月の初旬というのに夏を思わせるくらいの天候の札幌を、会員のAさんの車に同乗させて頂き様似へ。時間に余裕があつたので、海岸に立ち寄り宝探しをしてから会場へと向かいました。

研修会では「花に魅せられて～カナディアンロッキーとミネソタ州の魅力的な花とコバイモの仲間」と題して、北海道大学名誉教授岡田尚武氏による花々を尋ねた旅の講演がありました。

氷河期時代の植物の話から現代の植物まで、スクリーンに投影された写真を通して植物の魅力を紹介して頂きました。数多くの方々に高山植物の魅力を感じてもらうために、自然保護の重要性を認識しました。

講演の後は、アポイ岳ファンクラブの方々による盛大な懇親会が行われ美味しい料理を沢山いただきました。有難うございました。

翌日はピンネシリ～吉田岳～アポイ岳の縦走です。皆で準備運動をして朝六時五十分ピンネシリ登山口を出発。

日高の山はダニに注意！と聞いてはいましたが、前から三番目という好位置(?)のせいか常時ズボンにダニが…それはアポイ岳に向かうまで続くのでした。ダニの見張り役をして頂いたF代表有難うございました。

ピンネシリの頂上では日高の山並みが見えましたが、その後はガスがかかり、一番の吉田岳からの眺望は拝めませんでした。そんな中でもお花畠では、ヒダカイソザクラ、アポイアズマギク、ヒメナツトウダイなど沢山のお花が迎えてくれました。

休憩をはさみながらゆつたりとしたペースで事故もなくアポイ岳に到着。頂上では雨の中皆の到着を待つてくれたコザクラの会の方々と記念写真を撮り、早々と下山を開始しました。

十四時二十分下山。約七時間三十分の縦走は、二万五千五百六十九歩とAさんの万歩計が教えてくれました。歩いたな～～というのが実感でしたが、振り返ってみるとコースは歩きやすく整備され、楽しく縦走

を終える事ができました。月に何度もコースを巡回しているというリーダーの信太さんをはじめ、アポイ岳ファンクラブの方々のおかげと感謝します。

下山後は研修所でおいしいそつめんとイチゴを頂き、登山の疲れが一気に癒されました。

今回初めての参加でしたが、「アポイがいつまでもアポイであり続けるために…」という皆さん努力と温かい気持ちが身近に感じられた研修会・登山でした。



岡田先生を囲んで懇親会

平成二十五年度 第一回

(平成二十五年六月十五日)

森林パトロールに参加して

会員 阿部 博子

今年の夕張岳の山開きは六月二十一日に決まり、例年通り一週前の六月十六日、第一回夕張岳森林パトロールが行われます。シーズン初めなので登山道の補修整備、コースマーク設置や清掃、そしてヒュッテ開きの準備も兼ねています。

ボランティアでのこの時期の夕張岳に登るは三度目ですが、希少な花が咲く時期でもあり、パトロールしながら開花状況も観察します。花名に夕張の名前に入るユウバリソウ、ユウバリキンバイ、ユウパリアズマギク、ユウパリコザクラ、そして日本でも数か所でしか咲かないナンブイヌナズナ。私にとつてはどれも憧れの花でしたが、過去二度のボランティアで観察することができました。三度目の今年はどうでしょうか。

今年はいつもの作業に加えて新しいステンレス製の杭を荷揚げする作業もあります。人数と重さを計算し1人4本ずつ背負うことになりました。一本が約一・五キロ、四本で約

六キロの重さになります。ロープの荷揚げは男性二人が担当し一人十三キロ程になつたようです。

六時前にヒュッテを出て冷水コース登山口から登り始めます。危険個所のチェックをしたり、道を塞いでいる大枝を手で除けたりしながら、ゆっくりペースで進みます。

例年通り石原平手前から雪渓が現れます。が、今年は雪解けが遅れたため残雪が多いようです。核心部は望岳台から先の前岳直下トラバースの部分です。先頭のリーダーが慎重にステップを作りながら進みます。そのおかげで後続はステップを使って安全に歩けます。が、それでも気を抜いて万が一滑落すると結構下まで止まりません。加えて先が尖った金属の資材も背負っていますから誰もが慎重に歩きます。

雪渓が切れた斜面にはシラネアオイやオオバキスミレなどが咲きだしています。ガマ岩が近づくとミヤマキンポウゲやミヤマオダマキが咲き、夏山シーズンの始まりを実感させます。さて、いよいよユウバリコザクラの居る蛇紋岩崩壊地へと進んで行きます。木道付近のユウバリコザクラはやや見頃を過ぎた感じもしますが、愛らしく咲いています。これからも雪が解けたところから順次咲いていくはずです。千四百m湿原も残雪が多く一面

雪に覆われています。それでも雪渓尻では濃い紫色のショウジョウバカマが春を告げています。

登山道、木道の状態を確認しながら進んでいくと、熊ヶ峰と釣鐘岩のコルが見えていますが、時刻はすでに十時四十五分。往きの行動は十一時までの計画です。吹き通しはあと三十分位でしょうか。やや時間を超過してしまいますが、せつかくここまで重たい資材を背負って来たのですから、そこまで持ち上げたいと誰もが思っているはずです。

そして、十一時十分、無事吹き通しに到着しました！（四頁へ続く）



雪渓を慎重に進む

子ども交流事業」

「がんばれ北の大地・夕張応援基金」助成

西ヒュッテ及び夕張岳 子ども21名、成人14名、スタッフ17名

に遊び、アポイの先生のお話を聞いて登山もしました。



ロープ遊び



火熾し



流しソーメン



丸太切り



第1回パトロールの面々

(三頁から続く) 雪解けの遅さと反対に、ユウバリソウはもうすでに見頃を迎えていました。ユウバリキンバイはピークを過ぎ、タカネグンバイ、ユウパリアズマギク、チングルマ、そしてエゾノハクサンイチゲも咲き始めています。開花状況は例年より一週間ほど早いようを感じます。

時間が残されていないので作業は来週に行うことになり、少し休憩したのち下山開始です。帰路は馬の背コースを下り登山道の状況確認しながら進み危険な箇所などがないことを確認します。登山道の大きな崩壊もなく、予定通りヒュッテに到着しました。

第5回

「旧産炭地域

平成25年7月20日～21日 夕張岳
よい子たちは、自然の懐で元

頂上を目指してがんばる



スイカ割り

子どもたちの
夕張岳登山をサポートして

会員 阿部 博子

ヒュツテ周辺で遊んだ翌日は夕張岳登山会です。二グループに分かれ、大きな子どもたちが中心のAグループは山頂を目指します。A君とB君はヒュツテで知り合いすっかり意気投合。登山中もまるで生まれた時から

の友達ように離れません。二人の会話を聞いているとまるで漫才の

ようですが、そんなに喋っていた

ら疲れるだらうとは、大人達の気

遣いです。一人の後ろに付いてい

ましたが会話はどんどんエスカ

レートします。望岳台から私とB

君が最後尾に着くとさすがに静か

になりましたが、ちょっと寂しそ

う・・。

下山になつてから何時の間にか、またくつついでいます。馬の背コースを降りていった一人の賑やかな声が冷水沢コースからもしばらく聞こえていました。

少し疲れたメンバーは、馬の背コースを降りる元気組と別れ、冷水コースを降りましたが、途中からひとりの女の子のペースがさらになります。靴擦れも起っているようで、途中で手当をしながらゆっくり降りました。聞くと生まれて初めての登山で今日一緒に参加している先生に誘われてきたとのことでした。「もうとほかの山に登つてからこゝに来ればよかつた」と話す。『もう登山なんかしたくない』と言われるかな、と思っていたので、その言葉に思わずほっこり。

ペースが遅いとはいえ初めての登山で結構体力を必要とする夕張岳に登つて降りてきているのです。中学生といえば、やはり人生で一番体力がある年代なのでしょう。

進路のことなど聞いたりしながらゆっくりと降ります。二人で一番最後にヒュツテに着くと、既に下山したみんなやスタッフが笑顔で迎えてくれました。

今日の登山がどの子供たちにとっても良い思い出のひとつになつてくれたらしいな・・・。そんなことを考えながら、子供たちと一緒に頗張るヒュツテ恒例の流しソーメンが、今日は一段と美味しく感じられました。

「夕張岳エゾシカ対策—I—III」

酪農学園大学技師・

会員 杉浦 晃介



平成二十二年から平成二十四年の三年間、北海道エゾシカネットワークの高山植物被害対策事業のひとつとして、本会と北海道、酪農学園大学とが協同でシカ被害対策のための電気柵や物理柵の設置を行つてきました。しかし昨年度でエゾシカネットワークの活動が終了し、継続したエゾシカ被害対策ができなくなることから、今年度から本会が主体となり、財団法人国際花と緑の花博覧会記念協会から助成を受け、「夕張岳における防鹿柵を用いたエゾシカ被害対策」と題した調査研究活動を北海学園大学教授の佐藤謙先生や酪農学園大学の学生と協力しながら実施しています。

設置している防鹿柵は柔軟性のあるFPR製ポールと樹脂ネットを用いたもので簡易柵とも呼ばれます。この簡易柵は材料が安い電気柵や物理柵に比べて設置方法が簡単なもので、夕張岳の高山帯に現在四基設置しています。柵を設置するだけでは、果

たして本当に高山植物が守られているのかどうか科学的な検証ができないため、柵の設置時から柵の内外の植生調査を実施しています。このデータはエゾシカネットワークが設置していた時から蓄積されており、今後の検証材料ともなります。



柵に近づいて来たエゾシカの母子

今後は破損

シカのほかにもヒグマが柵のすぐ横にいる様子が撮影されていました。幸い柵にイタズラされることはありませんでしたが、今後は破損

柵を興味深げに覗くシカが鮮明に撮影されており、対象となる希少植物が確実に守られています。八月のデータ回収時には、柵を興味深げに覗くシカが鮮明に撮影されており、対象となる希少植物が確実に守られています。八月のデータ回収時には、



柵に興味の熊

されてもすぐには再設置できるような体制を構築する必要があります。エゾシカによる高山植物への被害は、私たちが気づかないところでも着実に進行しています。「そういうえばあの植物少なくなったね…」そういう会話をよく耳にします。最も確実なのが夕張岳の高山帯でエゾシカを捕獲してしまうことかもしれません。しかし、登山客が多い夕張岳の高山帯で狩猟をする事とは困難であり、たとえ捕つたとしても死体を山の上からどのように搬送するのかという課題も残ります。今できることは、緊急避難的にでも食害の危機にある高山植物を柵で囲い、私たちが少しでもエゾシカによる被害から守っていくことだと思います。

会のうごき

5月	31日 役員会
6月	1日 会報「こざくらだより」第93号発行 1日～2日 アポイ岳安全登山盗掘防止研修会 兼 アポイ・ユウバリ学習交流登山 (様似町)当会13名 6日 夕張岳関係者協議会(夕張市)当会3名 8日～9日 新ヒュッテ内装作業・炊事テント設営 ・給水 11名 15日 安全登山研修会 講師:長谷川雄助 市民研修センター 24名 15日 ヒュッテ開設準備 清掃整理・薪 21名 16日 第1回森林パトロール兼登山道補修、杭、 ロープ荷上げ 16名 21日 編集会議 6名 22日 ヒュッテ開き 20名 来賓:空知森林管理署長・ 夕張警察署長・市教育委員会 23日 高山植物パトロール・ロープ補修 6名 酪農学園大 3名 29日 官民合同パトロール 当会4名 29～30日 花博基金活動 エゾシカ対策希少種 調査登山 7名 同上 コースロープ補修・破損杭等撤収荷下げ 3名 同上 新ヒュッテ作業 5名
7月	3日 役員会 5名 6日～7日 新ヒュッテ作業 7名 同上 NHK「小さな旅」国井雅比古氏夕張岳登山 案内役 藤井代表 7日 第2回森林パトロール 3名 8日 空知森林管理署夕張合同事務所 林道徒步巡視 当会2名 新ヒュッテ作業 3名 10日 官民合同パトロール 雨天中止 当会 5名 13日～14日 道によるエゾシカ食害対策電気柵設置 道庁6名、酪農大学3名、当会3名 15日 「さよなら大夕張ダム」イベント(南部) 協力4名 19日 子ども交流事業打合せ 6名 20日～21日 第5回旧産炭地域子ども交流事業 子ども21名 大人14名 スタッフ17名 講師:田中正人・加藤聰美氏(アポイファンクラブ) 20日～21日 エゾシカ対策希少種調査登山 佐藤・杉浦他7名 26日 編集会議 6名 27日 鈴木市長夕張岳登山 中止 27日～28日 新ヒュッテ作業 14名 28日 本山節彌氏、鳥嶋清嗣郎氏ヒュッテ見学 公演下見 代表対応
8月	3日～4日 新ヒュッテ作業 5名 7日 危険木調査登山～市教委へ報告 2名 10日～11日 新ヒュッテ作業 5名 15日 新ヒュッテ作業 2名 16日 「幸福の黄色いハンカチ基金」 助成金交付申請提出 17日～18日 新ヒュッテ作業 3名 18日 第3回森林パトロール 大雨中止 21日～22日 エゾシカ対策希少種調査登山 佐藤・杉浦他3名 23日 夕張岳ヒュッテ建設工事竣工提出(夕張市) 24日～25日 新ヒュッテ作業 7名 29日 夕張市消防署新ヒュッテ査察 市教育委員会同行 事務局対応 31日 新ヒュッテ作業 5名
9月	1日 新ヒュッテ作業 4名 6日 夕張市建築課・財政課・教育長他 7名 新ヒュッテ査察 事務局対応 7日 第4回森林パトロール 8名 7日 新ヒュッテ作業 6名 8日 新ヒュッテ完成記念こけら落とし 「賢治と遊ぶ」 夕張岳でユウバリコザクラと出会った 菅村敬次郎、清水邦典、本山節彌、齊藤征義、 鳥嶋清嗣郎、演劇集団「群'73」

平成25年度 ヒュッテ開き

今年のヒュッテ開きは6月22日(土)、空知森林管理署長、夕張警察署長、夕張市教育長(代)のご出席を得て、自然保護、安全登山へのコメントを頂いた後、信州地酒の鏡開きで山の安全を祈願して管理人の常駐が始まりました。



山の安全を祈願して



新ヒュッテの宿泊室

立派な薪ストーブを寄贈されました



日本森林林業振興会
札幌支部様から新ヒュッテへ薪ストーブを寄贈していただきました。

デンマーク製の豪華なもので、薪が燃える炎の暖かさが穏やかに伝わってきます。ありがとうございました。

ヒュッテの冬囲い作業

新ヒュッテの冬に備える処置や資材類の整理整頓、薪の整理搬入、給水パイプに炊事用テントや調理台の撤収など周辺作業に入手を要します。

奮ってご参加ください。

日 時	平成25年10月12日(土)、 13日(日)、14日(月・祝)、 26日(土)～27日(日) (1泊2日)
集合時間	いずれも午前8時
集合場所 (解散)	清水沢お買物広場 車を乗り合せて移動します。

事前申込み、問い合わせは事務局まで

ヒュッテ建替え募金報告

(9/8現在)

ヒュッテ建替え募金 第11回報告

945名 6,941,115円

皆様の暖かいご支援により、ヒュッテ建替工事が竣工し夕張市の確認も終了、9月から宿泊可能になりました。引き続き炊事棟の建設やトイレの改修などを進める必要がありますので、「ヒュッテ建替え1口千円一万人」の名称は終了しましたが、今後もご支援を賜りたくよろしくお願ひいたします。

ご支援の振込先は

夕張岳ヒュッテ管理運営委員会

郵便局振込み口座は

02750-6-97634

会費の継続納入・ご寄付 ありがとうございます

お陰さまで当会は創立25周年、ボランティアパトロール15周年を迎えます。夕張岳の自然や当会の活動に関心のある方は事務局までご連絡ください。

年会費2,000円 家族会費3,000円

名義 ユウバリコザクラの会

郵便局振込口座 02780-9-43747

編集後記 第74号(2004.3.16発行)から続いた題字を
9年振りで改めました。

● ● ● 望年会のお知らせ

今年度の自然保護、子ども交流、エゾシカ対策、ヒュッテ建替、他の活動を振り返り、また積み残した課題へ向けてステップアップするために、忘年でなく望年会を開きます。

日 時 平成25年11月30日(土)
午後3時～

場 所 当会ミーティングルーム
(鹿ノ谷東丘町3番地)

会 費 1,000円

その他：ミーティングルームは雑魚寝ですが宿泊可能。出席希望者は事務局へ連絡ください。

第5回 森林パトロールボランティア

納会登山を兼ねて今年度最後のパトロールは、登山道のコースロープの撤収に入手を要します。林道ゲートは9月末で閉鎖されてますので集合時間確認の上奮ってご参加ください。

日 時 平成25年10月5日(土) 午前8時
～6日(日)午後5時予定(1泊2日)

集合場所 清水沢お買物広場
(解散) 車を乗り合わせてヒュッテに向かいます。

参加申込みは 事務局まで。

花の夕張岳がテレビ放映

1頁でも述べられてますが、国井雅比古さんが各地の山を訪ねる番組「小さな旅」(NHK BSプレミアム)で夕張岳が8月25日朝放送されました。藤井代表のインタビューと会員が新ヒュッテの作業をしているところや代表がガイドした映像の他に、当会がヒュッテを管理する経緯と募金や廃校の材木で建替えてる事が音声で流れました。

